



それでも前へ 歩みを止めずに

校長 本多 妃佐子

保護者の皆様には健やかな新年をお迎えのことと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。始業式の日には校門で子どもたちを迎えましたところ、とても元気な挨拶が返ってきました。この学校の校長であることをうれしく思いました。

コロナウィルス感染症はまだ収束が見えず、1月7日に一都三県で政府の緊急事態宣言が発出されました。学校は休校措置を取らず、一層の感染防止対策を取りながら、教育活動を続けていく方針が出されました。情報が少ないと、不安や迷いなどが生じます。宮田小では、方針や変更点など、その都度情報を素早く、わかりやすく、学校メールや文書でお伝えします。

さて、新年の始まりは、誰にとっても物事の取り組みへの新たな期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。始業式の子どものたちの態度を見てみると、その気持ちが緊張感として伝わってきました。残り3か月、どのような自分でありたいのか、そのためにどのような役割を果たすべきかを自分自身で意識することが大切です。

「できなかったことができるようになった」「わからなかったことが理解できた」その喜びを実感しながら成長するためには、目標を持ち、力いっぱい取り組む過程が大きく関わります。私たちは、目標があることで努力をし、努力をしたことで成果を期待するものです。とは言っても、努力すれば必ず望んだ結果を手にするわけではありません。むしろ、努力が報われずに、満足のいかない結果のほうが多いのかもしれない。

しかし、目標に向かって努力することや諦めずに取り組んだ充足感は、目に見える結果以上に本人にやりがいをもたらしてくれます。目標が達成できることに越したことはありませんが、努力がすべて無駄になるとは言い切れません。次は同じ轍を踏まない、次はこうしようと、次への挑戦につながる意欲を手にするのです。

「教育は、共育であり、鏡育でもある」と聞いたことがあります。子どもは大人の鏡でもあるといわれます。身近な存在である大人は、良きお手本としての役割が求められます。このコロナ禍の先行きの見えない不透明な今こそ、私たちが親として、教師として鏡たる子どもの目指す姿であることを意識していきたいです。目標をもって前向きに取り組む生き様を示すことで、その役割を果たせるのではないかと考えます。

2021年は、決して平坦な道のりではありません。それでも前を向いて、一步一步確実に進んでいくしかありません。歩みを止めずに。



【重要】緊急事態宣言下での対応（1/8～2/7）	
先に文書でお知らせしました通り、市川市教育委員会「緊急事態宣言発令時における学校対応について」（1月7日付）の通知に基づき、感染防止をより強化するとともに、教育活動の一部を制限しながら、教育活動を継続してまいります。対応について簡潔にまとめました。	
原則 学校教育活動	三密回避 マスクの常時着用(休み時間・体育を含む) 手洗いの徹底 ①校外学習休止・延期 ②学校行事休止・延期 [1・4年の心音・心電図検査は生命にかかわる重要事項とし、対策を講じた上で実施します] ③部活動休止
学習活動	①音楽…合唱・リコーダー・鍵盤ハーモニカ等飛沫が想定される活動の制限 ②体育…マスク着用 密集 近距離 組み合うなどの運動の制限 運動量を下げて、休憩時間を確保する ③その他の教科…飲食を伴う活動休止 近距離での作業の制限 ④クラブ活動休止 委員会活動休止(常時活動は最小限) 縦割り活動休止 ⑤ゲストティチャー 外部人材の活動休止
給食・保健	①給食時の飛沫防止…配膳・給食中・片付け時会話をしない 個包装等手でじかに食品をつかむことがない工夫 ②消毒 換気 検温は現状の対応を継続
教育課程外	①まなびくらぶ休止 ②子ども教室休止 ※保育クラブは継続 ③施設開放休止 ④PTA 活動の工夫…集金業務を広い場所で 会議の工夫

いつも見守り ありがとうございます



毎日、共立幼稚園の通りから宮田小東門に通じる交差点で交通の見守りをしていただいています。新田2・3丁目自治会の竹内かほるさんと岡田龍三さんです。「今日は遠足だね。」「髪の毛を切ったんだね。」と、家族のような温かい言葉かけをしてくださいます。2年2組では、道徳科の学習で、お世話になっている人に感謝の気持ちを伝えることになり、子どもたちから竹内さんと岡田さんに、お手紙を渡したいということになりました。いつも見守り、ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

「新成人の集い」10日にオンライン開催
4,628名の方が市川市で新成人となりました。今年度は、式典会場は設けずに、市長祝辞 新成人代表挨拶 先生方のビデオレター等がオンライン配信されました。また、家族や友人と一緒に記念撮影ができるフотスポット会場を14か所設置しました。コロナ禍の中、企画運営に携われた実行委員会の皆さんをはじめ、多くの関係者の工夫と努力により、門出を祝福することができました。市川で学び、市川で育った新成人の皆さんには、未来に向かって自らの可能性を大いに発揮していけることを祈念するとともに「支えられる人から支える人」として、益々のご活躍を期待したいと思います。【教育長通信 104号より】

「生活アンケート」から見えてくること
昨年末に、全学年の児童を対象に「学校生活アンケート」を実施しました。その中から、1つお話しします。**問5「クラスの人とあまり話したくないと思うことがありますか」という質問に、23.6%の子どもが「はい」と答えています。**人間ですから、時には人の話を聞くのが面倒くさいと感じたり、集団の中で生活することが窮屈に思えたりすることもあります。「そんな日」もあり、「そうでない日」もあり、バランスをとっているのかもしれない。それを、自分でわかるところが、宮田っ子の素晴らしいところです。